

Drug Information NEWS

薬がつくる えがお



薬剤部 医薬品情報室（内線7723） Vol. 9 （2011年1月11日発行）

トピックス

院内感染制御と薬剤師の役割について

近年、抗菌薬の不適切な使用等による耐性菌の出現などを受けて、院内の感染防止対策の重要性がますます高まってきております。感染症の治療に用いられる種々の薬剤（抗菌薬等）や、消毒薬の適正な使用が求められており、これら薬剤の特性を十分理解している薬剤師がチーム医療に果たす役割は大きいと思われる。また、日本病院薬剤師会が感染制御専門薬剤師・認定薬剤師の資格を設け、また日本化学療法学会は、抗菌化学療法に特化した薬剤師を育成するために、抗菌化学療法認定薬剤師の資格を設け、感染制御に関してより専門性を有する薬剤師が中心となり、各施設での感染制御に深く関わるケースが多くなっています。

薬剤部の感染制御における役割を簡単に紹介します。注射薬払出部門である薬品管理室の薬剤師ならびに病棟担当薬剤師は、抗 MRSA 薬など特定の抗菌薬の血中濃度データをもとに、患者さんにとって最適な抗菌薬の用法用量を提案する「治療薬物モニタリング (TDM)」業務に関与しております。これら抗菌薬や、抗真菌薬の血中濃度測定も適宜行っております。また、製剤室や外来治療センターにおける注射薬の無菌混合調製 (TPN、抗がん剤など) 業務も、注射薬の無菌性を担保する意味で、重要な感染管理業務のひとつといえます。

さらに、2名の薬剤師が院内感染対策チーム (ICT) に所属しております。当院では 2010 年 6 月より、ICT による院内巡回 (ラウンド) が開始されました。ICT メンバーの薬剤師は、とくに抗菌薬使用状況について、特定抗菌薬 (抗 MRSA 薬、カルバペネム系薬) の処方状況や、半年ごとの系統別抗菌薬

使用状況について集計し (脚注参照)、ラウンド時にそれら抗菌薬の適正使用に関して各診療科の先生方に助言、提言をさせていただいております。また、抗菌薬使用に関する相談も適宜受けています。さらに毎週水曜日は、ICU 回診に ICT 医師と共に参加し、院内の抗菌薬使用状況の把握などに努めております。このような活動を通し、感染制御へ取り組んでいきたいと考えています。また、薬剤師はとくに、薬物動態や薬理学を得意としています。この特性を最大限に活かし、薬物療法への介入 (抗菌薬のみならず) などにも積極的に関わっていききたいと考えています。

【脚注】

抗病原微生物薬 (抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬) の系統別使用割合 (2009 年度、注射実施入力本数での割合)

カルバペネム系、抗 MRSA 薬、抗 VRE/MRSA 薬 (リネゾリド) は、感染制御の面から使用状況が十分に管理されていなければならない薬剤であり、使用時に届出の提出が必要である。本集計において、当院において昨年度最も使用量が多かったのはカルバペネム系薬であった。

Staff Interview

薬剤部副部長・准教授 山田 武宏



薬剤部において、治療薬物モニタリング (TDM) 業務のほか、患者さんの薬物治療に役立てるための臨床研究立案・推進などを行っております。また、院内感染対策チーム (ICT) に所属し、抗菌薬適正使用推進にも取り組んでいます。最近、インфекションコントロールドクター (ICD) を取得しました。この資格を十分に活かし、今後の当院の感染制御にさらに貢献できればと考えております。

編集委員：浅野 逸郎、林 えり子、水口 貴史、川岸 亨、笠師 久美子

ご意見、ご感想をお待ちしています kusuri@med.hokudai.ac.jp